

## 猫車②

(1) 父を殿様に殺されたお千代、孝七の姉弟は、泣く泣く父のノベオクリを済ませました。百か日の供養も済んで、骨をうずめて

(2) 「姉ちゃん、オレはくやしくてならないよ。いくら殿様でも罪も無いお父さんを殺すなんであんまりだ。オレは殿様を殺してカタキをうつよ」「これ孝七、そんなことを言うと…」

(3) 「話ながら帰つて行くふたりのあとをじつと見てている男は権太というナラズモノです。」あの姉の方をうまくオビキ出して、人買いに売つてしまおう。ようし

(4) 「へへへへへ、お千代さん今日は。お前さん、いい仕事があるんだ。ちょっとそこまで来てくれないか。なアに手間はどらせないよ」「はい。孝七、せつかく権太さんが言つてくれるから…」と、

(5) 「弟を先にかえしてお千代は、オソロシイワナにかかるともしらず、権太といつしょにいきました。「何だか心配だなア」とウチへ帰つた孝七は、

(6) 「夜になるまで姉をまちましたが、かえつてきません。「姉ちゃん、おそいなア。あのゴン太というやつはヒヨーバンのわるいやつだ。しんぱいだなア」

(7) 「ニヤオー」「玉か…お前も心配しているのかい。姉さんはどうしたろう」と孝七は玉に言つています。するとスルリと孝七の手をぬけたタマは、

(8) 外へ走り出して行きました。「おいッ、タマ、ドコへいくんだおい」しかしタマは、孝七の制止など聞きません。こちらは

(9) だまされて、ナラズモノのいる家へつれこまれたお千代です。「もうおそいかえります」「へへへへへ、今夜はとまつていきな。おいッ、にげようつたつてにがしあしないぞ」するとこの時

(10) この家の近くにあるきよる一人の娘…あ。これはどうしたことか、カオも形もお千代とそつくり同じではありませんか…果して。